



薬剤師の

ちょっと薬に立つお話

上田薬剤師会 発

YAKUNI
TATSU
OHANASHI
VOL.90

Vol.90

地域の皆さんの健康のために
さまざまな活動をしている
上田薬剤師会から、
健やかな毎日をつくるために
ちょっと役立つお話を
お届けしていきます。

毎月「第2土曜日」の
週刊うえだを、どうぞお楽しみに!

今月のTOPICS

ワクチンとは

新型コロナウイルス
のワクチンが日本でも

承認され、いよいよ接種が開始されました。いま注目されている「ワクチン」について、薬剤師の仁平拓さんに聞きました。



ワクチンとは? ポイントは「免疫」効果

細菌やウイルスなどの病原体が体内に侵入すると、それをやっつける「抗体」と呼ばれるたんぱく質などが作られ、外から新たに侵入してくる病原体を攻撃する仕組みができます。これを「免疫」といいます。この免疫は一度獲得すると、体が一定期間記憶していて、同じ病原体が侵入してきたときに反応し、病原体をやっつけてくれます。

この仕組みを利用したのが「ワクチン」です。病原体の一部や弱らせた病原体を接種することにより、あらかじめ免疫をつくっておき、病気になりにくくするものです。イベントの予定演習しておくようなものといってもいいでしょう。



ワクチンの役割 ワクチン接種の役割は大きく2つ!

- ① 個人を守ること ワクチンを接種することで、その人の感染症の発症や重症化を予防することができます。また、自分が予防することで、妊婦さんやアレルギーなど諸処の事情で接種を受けられない人たちを守ることにつながります。
- ② 社会を守ること

ワクチンは治療薬ではない

ワクチンは、基本的に治療薬ではありません。治療とは、抗生物質や抗ウイルス薬を使用したり、治療薬が存在しない場合は対症療法で対応するなどして、症状、病態を緩和し、悪化を抑えるものです。ワクチンはあくまでも感染を予防したり、重症化を予防するためのものです。

いろいろなワクチンのつくり方

<h4>生ワクチン</h4> <p>(例: BCG、水疱瘡、ポリオなど)</p> <p>病原体となるウイルスや細菌の毒性を弱めたものを原材料にしてつくりられます。十分な免疫ができるまでに1カ月ほどかかりますが、接種の回数は少なく済みます。</p>	<h4>不活化ワクチン</h4> <p>(例: インフルエンザなど)</p> <p>病原体となるウイルスや細菌の感染する能力を失わせたものが原材料。免疫力がつきにくいので、数回の接種が必要です。</p>	<h4>トキソイドワクチン</h4> <p>(例: 破傷風など)</p> <p>病原体となる細菌が作る毒素だけを取り出し、毒性をなくしてつくりられます。数回の接種が必要です。</p>
---	---	---

mRNAワクチン

話題のファイザー社製の新型コロナワクチンは、従来のものとは全く異なる、新しいタイプのワクチンです。ウイルスの細胞にくっついて侵入するたんぱく質「スパイクタンパク」の遺伝情報(設計図)だけを切り取ってコピー。これを体内に入れて細胞内でスパイクタンパクをつくり出すことで、免疫が記憶し、ウイルスをやっつけられるようにするものです。



新型コロナワクチン気になる「副反応」は?

ワクチンを接種した後に、熱が出たり、腫れたり、しこりが出たりすることがあります。そのような好ましくない変化を「副反応」といいますが、そのほとんどは生体の反応である一時的な症状で、本当に感染した場合と比べると症状は軽く、2~3日で自然に消えます。

急な副反応は接種後30分以内に起こることが多いので、しばらくは接種場所で様子を見ましょう。やむを得ずその場を離れる場合は、接種した医療機関とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。接種当日は激しい運動をせず、注射部位をこすらないようにしてください。

※副反応で健康被害が起こり、医療費がかかった場合、後遺症が残った場合などは、国(医薬品医療機器総合機構「PMDA」)が被害を救済する制度があります。

新型コロナワクチンについて

最新情報は厚生労働省のホームページで確認してください。接種のしかたについてはお住まいの自治体からのご案内をご確認ください。

特集

薬剤師を頼りにしてください!
薬剤師の役割 その②

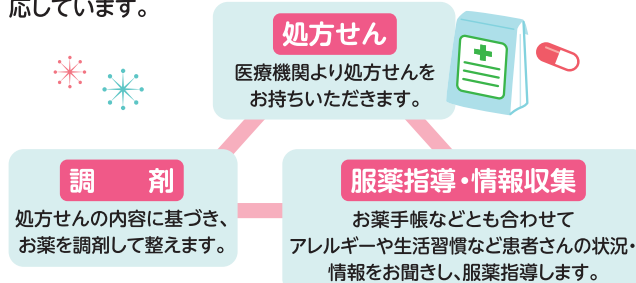
高度薬学管理

がんや糖尿病など高度な薬の管理を必要とする患者さんに対して、副作用や併用薬を考慮したケアを行い、患者さんはもちろん、医師や医療機関のニーズに応える「高度薬学管理」。薬剤師の横林秀明さんに聞きました。



高度薬学管理とは?

薬局に来られた患者さんには、一般的に以下のような流れで対応しています。



しかし実は、処方せんやお薬手帳だけではわからない、患者さんの重要な情報があります。フォローが必要な高度な薬物治療を必要とする患者さんが医療機関を受診し治療した際に知りたいのは、たとえば...

- ・その時の注射の内容は何でした?
- ・その後の体調変化は?
- ・検査の結果はどうでした?
- ・先生の治療方針は?

地域の薬局薬剤師と医療機関の薬剤師が情報を共有することで「薬・薬連携」をとることができ、患者さんを適切にフォローし、安心して薬物治療を継続してもらうことができます。

薬・薬連携を構築する「上小メディカルネット」

地域の患者さんに適切な医療サービスを提供するため、個人情報取り扱いに同意された患者さんについて、診療情報を他の医療機関等と共有し、地域医療連携を実現することを目的としたシステム「上小メディカルネット」があります。

こんな事例があります!

① 処方せんにて抗がん剤が開始されたため、一緒にスケジュールを確認しましょうと上小メディカルネットを紹介、同意を得た。

② 何クールか終わった頃、薬が残っていることが判明! 話を聞いたところ、きちんと服用できていなかった。さらに、抗がん剤を飲み忘れたら、飲み終わるまで飲んでいただとのこと。上小メディカルネットで確認した化学療法スケジュールから逸脱することがわかった。

③ Dr.Joy(医療機関との情報連携ツール)を通じて、当該病院薬剤部に連絡。患者さんの「服薬期間」と「休業期間」のスケジュール認識があいまいになっていることを報告。

④ その対応策として、薬を一包化し、さらに服用日を印字することで、もしも飲み忘れた場合も休業期間をきちんと取れるようにした。

⑤ その後は、副作用の確認と確実に服薬を続けるため、Dr.Joyを通じて病院の薬剤部と連携している。

詳しくは、かかりつけ薬剤師・薬局にお尋ねください!
◀上田薬剤師会「認定基準薬局」の目印、グリーンクロス看板

はい、お答えします! のコーナーは今月はお休みです

HPでバックナンバーもご覧いただけます ▶ <http://www.uedayaku.org/>

